

カラーレ芽のうたげ

坂口安吾

桜の森の満開の下

ある峠の山賊と
美しくも残酷な女との幻想的な物語。

情け容赦なく着物をはぎ、
人の命を絶つひとり山の山賊。
ただひとつだけ怖れているもの、
それは、桜の森の満開の下――。

カラーレ・プロデューズ

朗読：橋爪功

演出：森新太郎

坂口安吾の傑作短編小説「桜の森の満開の下」に、
日本の演劇界屈指の名優・橋爪功が挑む。

橋爪功朗読劇

2016.
12/19月

開場 18:30 開演 19:00

黒部市国際文化センター

カラーレ

〈カーターホール〉

〈全席指定〉

一般 3,500円

高校生以下 1,000円 (カラーレでのみ発売)

障がい者手帳をお持ちの方 2,500円 (カラーレでのみ発売)

カラーレ 富山県黒部市三日市20番地

TEL.0765-57-1201 FAX.0765-57-1207

info@colare.jp http://www.colare.jp/ 開館時間:9:00~22:30(土曜~23:00) / 毎週水曜日休館

●この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
●未就学児の入場はご遠慮願います。公演中、未就学児を対象とした「一時保育(無料)」を実施しています。公演1週間前までにお申し込みください。

■プレイガイド：カラーレ／黒部メルシー／魚津サンプラザ／入善コスモホール／チケットぴあ (Pコード 454-002)
アーツナビ (新川文化ホール・富山県民会館・富山県教育文化会館・富山県高岡文化ホール)
主催／公益財団法人黒部市国際文化センター 共催／北日本放送 後援／黒部市・黒部市教育委員会・北日本新聞社

チケット一般発売日

9月25日(日) 9:00~

写真：引地信彦
Hikiji Nobuhiko

橋爪功朗読劇

坂口安吾

「桜の森の満開の下」

ある峠の山賊と

美しくも残酷な女との

幻想的な物語。

情け容赦なく着物をはぎ、

人の命を絶つひとりの山賊。

ただひとつだけ怖れているもの、

それは、桜の森の満開の下――。

桜の森が美しいある山に、一人の山賊が住み始めた。

山賊は七人の女房を持ち、

情け容赦なく着物をはぎ、人の命を絶つ男だ。

そんな怖れを知らない男でも、

桜の森の花の下を通ると、

頭がおかしくなりそうになるのだった。

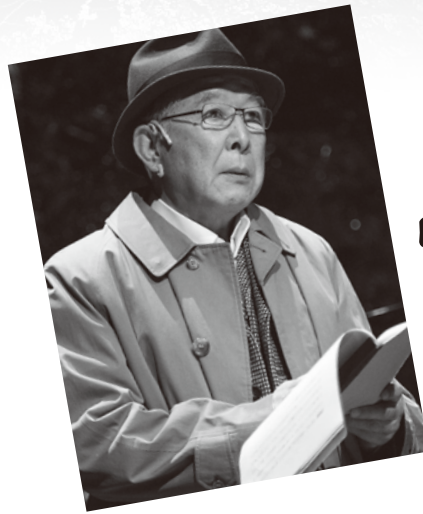
ある日、男は八人目の女房をさらってくる。

その女はまれにみる美貌の持ち主だったが……。

ある峠の山賊と、美しくも残酷な女との

幻想的な物語――。

日本の現代演劇を代表する俳優・橋爪功がひとり挑みます。



作…坂口安吾

朗読…橋爪功

演出…森新太郎

照明…佐々木真喜子

(株式会社ファクター)

音響…穴沢淳

美術…衣裳…カナイヒロミ

舞台監督…清水義幸(カフンタ)

舞台監督助手…小川信濃(カフンタ)

照明助手…岡崎亘

制作…(有)ハーシース

協力…橋爪弥宵

俳優 橋爪功(はしづめ・いさお)

文学座、劇団雲を経て、演劇集団円の設立に参加。代表をつとめる円を中心に、野田秀樹作品など外部出演も多い。

主な舞台作品は、『シラノ・ド・ベルジュラック』『ファウスト』『レインマン』『ウエアハウス』『ドレッサー』『エッグ』『TABU』等。二〇〇七年『実験』『レインマン』では、第十五回読売演劇大賞選考委員特別賞を受賞。

山田洋次監督映画『東京家族』『家族はつらいよ』主演。『東京家族』では、二〇一四年日本アカデミー賞主演男優賞を受賞。

語りの名手としても知られ、日本の演劇・映像の世界にはなくてはならない俳優である。

演出家 森新太郎(もり・しんたろう)

二〇〇六年、演劇集団円『ロンサム・ウエスト』で演出デビュー。戯曲に真つ向から対峙し、人間の心理を紐解きながら緻密に芝居を立ち上げていく手腕が高く評価され、これまで数々の賞を受賞。自身が主宰するモナカ興業でも活動中。現代劇から古典までジャンルを問わず幅広く手がける。

二〇〇九年『田中さんの青空』『孤独から一番遠い場所』で毎日芸術賞演劇部門千田是也賞受賞。二〇一〇年『コネマラの骸骨』で文化庁芸術祭優秀賞受賞。二〇一三年文化庁新進芸術家在外研修員としてアイルランド滞在。二〇一三年、『汚れた手』『エドワード二世』で読売演劇大賞大賞・最優秀演出家賞を受賞。平成二十五年(第六十四回)芸術選奨演劇部門文部科学大臣新人賞を受賞。

演劇集団円演出部会員、モナカ興業主宰、四国学院大学非常勤講師。

「桜の森の満開の下」

作品解説

一九四七年(昭和二十二年)に発表された、短編小説。坂口安吾の代表作のひとつで、その幻想的な作風から人気があり、傑作と称されることの多い作品である。初出当時はあまり注目されておらず、作者の死後に讃辞されるようになった。

あらすじ

桜の森が美しいある山に、一人の山賊が住み始めました。山賊は七人の女房を持ち、情け容赦なく着物をはぎ、人の命を絶つ男でした。そんな怖れを知らない男でも、桜の森の花の下を通ると、頭がおかしくなりそうになります。

ある日、男は八人目の女房をさらってきます。まれにみる美貌の持ち主であるその女は、足の悪い女を一人召使いとして残し、男に元の女房たちを斬り殺させます。

その美貌は怖ろしいほどでしたが、わがままな女でした。男は女の言うことならば何でも聞き、かいがいしく尽くします。それでも女はやがて都を恋しがり、男は女とともに山を出て都に移ることにしました。

男は都で着物や宝石などを盗みますが、それらは女の心を満たしません。女が欲しがったのは人間の生首でした。やがて男は女の望むままに、首を持って帰るようになります。そうして女は、その首を使って遊ぶのです。

女の切りのない欲望に男は嫌気がさし、都暮らしを嫌い、やがて山に帰りたいと思うのですが……。